

既存のフィルム映写機を利用し、低コストで 3D 映画の上映が可能に！
フィルムによる3D映画上映システムの提供を開始

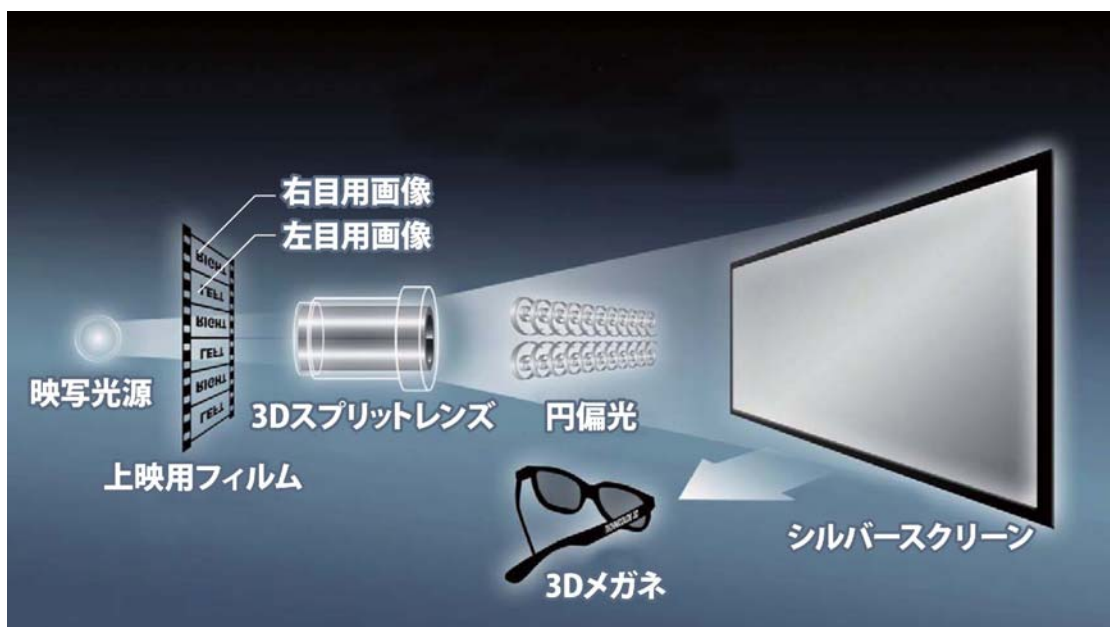
平成 22 年 9 月 9 日

富士フィルム株式会社(社長:古森 重隆)は、フィルムによる 3D 映画上映システムの日本国内での普及を進めるため、同システムに必要な専用レンズの提供を本日より開始いたします。このシステムでは既存のフィルム映写機をそのまま利用できるため、低コストで劇場での 3D 映画の上映が可能となり、大人気の 3D 映画をより多くの方々にお楽しみいただけます。

昨年から本年にかけて、3D 映画の話題作が次々と公開されデジタル 3D 上映システムの導入を検討する劇場が増えています。しかしデジタル 3D 上映システムは、デジタルプロジェクターやサーバー等に加えて 3D 専用の付属設備が必要なため、現在全国の約 3400 スクリーン中デジタル 3D 上映に対応しているのは約 15%と*1、初期投資・トータルコストの高さから導入できない劇場も多いという現状があります。 *1 当社調べ。

今回富士フィルムが提供を開始するのは、既存のフィルム映写機をそのまま利用して 3D 映画が上映できる、米国のテクニカラー社が開発した「Technicolor 3D」システムです。このシステムによる 3D 映画の上映は今春から欧米で開始され、年内に約 700 スクリーンを目標に導入が進められています。当社は、劇場向け映写設備の販売・保守サービス会社を通じて、フィルム映写機に装着する専用レンズのレンタル及び設置を行い、日本国内において本システムの普及を進めていきます。

<フィルムによる 3D 映画上映システムの仕組み>



この「Technicolor 3D」システムは、上映用フィルムの 1 コマを上下に分け、それぞれに左目用・右目用の画像を記録させて*2、映写機に装着した専用レンズ(3D スプリットレンズ)を通して 3D 映像を映写するシステムです*3(上図)。

*2 上映用フィルムは配給会社で作成いただけます。

*3 本上映システムは、鑑賞姿勢の自由度が高い円偏光方式を採用しています。

劇場には、当社からレンタルで提供する専用レンズのほか、本システムでの 3D 上映に必要な「シルバースクリーン」、上映時に観客の方々に配布する「3D メガネ」をご用意いただきます。既存のフィルム映写機を用いるため、劇場にとっては専用レンズのレンタルやシルバースクリーンなどの費用を含めても低いコストでデジタル 3D 方式と同様に高画質な 3D 映画の上映が可能となります。また劇場での映写オペレーションも従来と大きく変わることはありません。



専用レンズ(3D スプリットレンズ)

日本における本システムでの上映は、株式会社東急レクリエーション及びユナイテッド・シネマ株式会社が運営する劇場において、本年 11 月以降本システムによる 3D 映画配給を表明している米映画制作・配給会社の作品*4 から順次開始される予定です。

*4 ワールドワイドで本システムの 3D 配給を表明している会社: DreamWorks Animation SKG.Inc., Universal Pictures, Paramount Pictures, Warner Bros., The Weinstein Company

北米での本システムでの 3D 上映作品: 「シュレック・フォーエバー」、「Megamind」、「エアベンダー」、「キャッツ & ドッグス」、「Piranha 3D」、「ハリー・ポッターと死の秘宝 PART1」、「怪盗グルーの月泥棒」、「My Soul to Take」

富士フィルムは、映画の製作から上映にいたる各プロセスで使用される高性能・高品質なフィルムの開発・販売に加え、この 3D 上映システム導入を推進することで、今後も映画産業の発展に貢献していきます。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係 広報部
お客さま イメージング事業部 映画グループ
インターネットホームページアドレス

TEL 03-6271-2000
TEL 03-3406-2338
<http://fujifilm.jp/>